

## 特集「つながりと知財」の企画にあたって

会誌広報委員会\*

近年、製品やサービスが高機能、多機能というだけでは、売れない時代になっています。このような時代を背景に、IoTやAI等デジタル技術の急速な発展を追い風にして、商品の製造販売といった既存のビジネスエコシステムが、巨大IT企業により、新たなプラットフォームを付与されながら作り変えられています。

そこでは、ネットワークと「つながり」をもつ製品により、あるいはデータを利活用するサービスによって、新たな付加価値が提供されています。また、多様化した顧客のニーズをとらえ、新たなイノベーションを起こすには、顧客との「つながり」領域でのデザインやブランドの重要性が増していきます。ビジネスのあり方が変わると知財業務においても、特許権の取得を中心とした自社技術や製品の保護（独占排他権の取得、ライセンス収入）から、異業種連携等の「つながり」による新たな共創の場での業務へ、役割が拡張されます。

近年このように、会社、人、技術、データといった多様な「つながり」が人々に新たな価値をもたらし、知財戦略が変化し、知財部門の役割が拡大しつつあるのではないのでしょうか。

そこで2019年特集号では、テーマを「つながりと知財」とし、新たな技術や新たな共創の形、あるいはこれら技術や共創をふまえた今後の知財戦略のあり方を各方面でご活躍されている方々に多面的に論じて頂きたいとの思いから今回の特集号を企画いたしました。

まず、第1部では自社と外部機関とのつながりについて、エコシステムの中で自社が競争で勝ち抜くための共創のあり方やルール作りという観点で論じて頂きました。また、第2部では、人や端末がつながることで得られるビッグデータやデータを分散管理するブロックチェーンといったデータ関連技術の進化について論じて頂きました。さらに、第3部では、つながりによって得られた商品およびサービスの価値を見出すという観点で、ブランド、デザイン保護に加え、新たな価値評価手法について論じて頂きました。

### 第1部 共創と競争

#### (1) エコシステム型の産業環境と知財マネジメント

オープンイノベーションやプラットフォームビジネスの類型をふまえて、エコシステム型産業における新しい知財マネジメントについて提言を頂いております。

#### (2) SDGs達成を実現させるエコシステム構築に向けた知的財産活用

SDGs（持続可能な開発目標）に関して、いかにして知財部門がSDGsに関わり、共創相手とエコシ

\* 2018年度 Publication and Public Affairs Committee

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

システムを創り上げていくべきかについて解説を頂いております。

### (3) 企業が推進するビジネスマッチング

KDDI株式会社での「オープンイノベーション」における事業共創と、ビジネスとして成功に導くための知財活動について、ベンチャー企業支援の取り組みを含めて紹介を頂いております。

### (4) ルールを創る –グローバルなイノベーション競争に勝つためのルール形成戦略–

標準に一定の強制力を持たせ、自社に利益をもたらすための「ルール形成」について、企業における必要性、利益、課題について事例を交えて紹介頂き、政策的な提言も頂いております。

### (5) 法律を変える –ロビイング入門–

より良い社会デザインを描くために法律が作られるプロセスと、ロビイングの重要性について、企業人としての筆者の実務経験を交えて解説を頂いております。

### (6) 「共創」ビジネスに貢献する知財部門のこれからの姿

次世代を勝ち抜くためのイノベーションと価値創造に必須となる共創をする力について、知財部門の役割、求められる人材、人材育成のあり方の観点で提言を頂いております。

## 第2部 データ関連技術の進化

### (7) Data-driven Innovationをめぐる現状と今後の課題

近年、様々な業種において急速に発展しているデータ主導型のデジタル技術の革新について日本がとるべき戦略に関して、政策、制度、および環境の整備の観点で提言を頂いております。

### (8) ブロックチェーンの知的財産・コンテンツ管理への適用について

ブロックチェーンの知的財産管理が今後期待される中で、主たる用途であるスマートコントラクトやタイムスタンプについての最新事例や法的問題の解説を頂いております。

### (9) 医療ビッグデータと知的財産 –各種法制度の現状と今後の課題–

様々な業種においてビッグデータの活用が試みられている中で、特に医療分野における特有の課題を関連法令をふまえ、知的財産としての医療ビッグデータの保護について解説を頂いております。

## 第3部 価値を見出す

### (10) 知財とブランド –知財部門がブランド戦略において担うべき役割–

ブランド価値のマネジメントについての解説もふまえ、知財部門がブランド戦略において貢献するために、どのような考え方で何をなすべきかについて提言を頂いております。

### (11) 欧州・ドイツにおけるデザイン保護の動向とわが国の意匠法への示唆

意匠権効力に物品の制約を課さない欧州・ドイツの意匠制度を比較法論説の対象として取り上げた上で、物品の制約を受けない意匠権の解釈上の課題について考察を頂いております。

### (12) 知的財産権の価値評価手法

業種別のライセンス活動の分析・報告と、異業種との結合が必要となる第4次産業革命において当該異業種間でも活用し得るような新たな知的財産権の価値評価手法の提案を頂いております。

知財を通じた様々な「つながり」を本誌にてご確認頂き、業務に活かして頂くことで、会員企業の事業が益々発展することを願っております。